前期終業式式辞

「小さなファーストペンギンであれ」




皆さん、「ファーストペンギン」という言葉をご存じでしょうか。

ファーストペンギンとは、集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛びこむ一羽のペンギンのことを言います。そこから転じて、最初に海に飛び込む--勇敢なペンギン--のように、リスクを恐れず初めてのことに挑戦する精神を持つ人のことを、敬意を込めて、「ファーストペンギン」と呼びます。

ある生徒を紹介します。その生徒は将来、教員となることを希望しているのですが、あるとき、釧路教育大学で行われている高校生対象の「みらいの教員養成プログラム」の存在を知りました。しかしながら、過去に北陽高校から、そのプログラムに参加した生徒はいません。その生徒は、教員にプログラムに参加したいと申し出て、結果、本校初の参加者として、２年間プログラムに取り組みました。

確かに、過去に誰かがやっていたことを、なぞるようにして行動することは、安心してできるという点でメリットがあります。それに対して、過去に誰もやったことがないことをやろうとするには、困難が伴うことでしょう。しかし、その行動によって得た経験やチャレンジ精神は、この先、社会で生きていく上で、役に立つものとなると考えます。

それだけではありません。ファーストペンギンの後に続いて仲間のペンギンが海に飛び込むように、そのチャレンジは、集団の行動に変化を与えます。実際に、先ほど紹介した生徒に続き、現２年次生から 10 名の生徒が「みらいの教員育成プログラム」にエントリーしました。

ファーストペンギンのような行動は、学校生活や日常生活といった身近なところで、たくさんチャンスがあるように思います。昔から当たり前のように行われていること、周りが当たり前のようにやっていること、大人が当たり前のように言っていること、その中だけで生きるのではなく、小さなことでもいいので、誰もやったことのないものに飛び込んでいく、そんな小さなファーストペンギンになってみませんか？

---

後期始業式式辞

「ファーストペンギンは、どのような場所で生まれるのか」

誰かが何かをやってみようとした時、皆さんはどのような反応をしますか。

夏休み明けの前日、先生方が集まり、研修を行いました。そのテーマは「心理的安全性」です。心理的安全性とは、集団の中で、自分の考えや気持ちを、誰に対しても安心して表現できる状態のことを言います。

このことを踏まえて、少し考えてみてください。

誰かが何かをやってみようとした時、この心理的安全性が保たれていなければ、何が起こるのでしょうか。その挑戦を否定する反応が、有形（「無理だ」という言葉やあざ笑い）・無形（冷ややかな空気）で現れることが想像できます。恐ろしいのは、その反応の積み重ねが、人の挑戦しようとする気持ちを奪っていくことです。逆に、心理的安全性が保たれている集団ではどうでしょうか。挑戦を応援する言葉や、実現に向けて方法をともに考える姿が目に浮かびます。

ファーストペンギンは、突然変異で生まれるものではなく、人々が作る環境によって生まれるものではないでしょうか。少なくとも、皆さんにお願いしたいことは、誰かが何かをやろうとすることを笑うのではなく、「いいね」「頑張れ」と応援してあげよう、ということです。